

管内月間火山概況（令和8年8月）

仙 台 管 区 気 象 台
地域火山監視・警報センター

噴火警報及び噴火予報の発表状況（8月31日現在）

警報・予報	噴火警戒レベル 及びキーワード	該当火山
噴火予報	レベル1（活火山であることに留意）	岩木山、八甲田山、十和田、秋田焼山、岩手山、秋田駒ヶ岳、鳥海山、栗駒山、蔵王山、吾妻山、安達太良山、磐梯山
	活火山であることに留意	恐山、八幡平、鳴子、肘折、沼沢、燧ヶ岳

各火山の活動状況及び予報警報事項

主な火山の活動及び予報警報事項の状況は以下のとおりで、予報警報事項に変更はありません。

岩木山〔噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）〕

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

八甲田山〔噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）〕

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

十和田〔噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）〕

2023年以降、中湖^{なかのうみ}付近の深さ5km前後が震源と推定される火山性地震の発生頻度がやや高い状態であり、GNSS連続観測では、2023年前半から主に十和田湖を挟む東西の基線でわずかな変化が認められています。火山活動は深部にやや変化が認められるものの、概ね静穏に経過しています。

秋田焼山〔噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）〕

GNSS連続観測では2020年中頃から秋田焼山を挟む基線で伸びの変化が認められていましたが、2025年4月頃から概ね停滞しています。その他の火山活動に特段の変化はなく、火山活動は静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

岩手山〔噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）〕←27日に噴火予報を発表し、噴火警戒レベルを2（火口周辺規制）から1（活火山であることに留意）に引下げ

2024年以降、山体膨張を示す地殻変動が観測され、黒倉山付近や山頂付近を震源とする火山性地震が増減を繰り返す等、火山活動の高まりが認められていましたが、7月下旬以降は概ね静穏に経過しています。

このことから、西岩手山の想定火口から概ね2kmの範囲に影響を及ぼす噴火の可能性は低くなったと判断して、27日11時00分に噴火予報を発表し、噴火警戒レベルを2（火口周辺規制）から1（活火



山であることに留意）に引き下げました。

想定火口内では、火山灰、火山ガス、熱水等が突発的に噴出する可能性があります。特に大地獄谷付近では、火山ガスの噴出や地熱の高まりがみられていますので注意が必要です。

火山活動に十分注意し、地元自治体等の指示に従って危険な地域には立ち入らないでください。

秋田駒ヶ岳〔噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）〕

山頂付近では、2017年9月以降、火山性地震の発生頻度がやや高い状態で推移しています。また、女^め岳^{だけ}付近では2015年頃まで地熱域の拡大が認められ、その後大きな変化は認められていません。引き続き地震活動や熱活動がやや高まった状態で経過していますが、その他の火山活動に特段の変化はなく、噴火の兆候は認められません。

鳥海山〔噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）〕

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

栗駒山〔噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）〕

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

蔵王山〔噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）〕

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

吾妻山〔噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）〕

山体浅部における熱水活動が高まる傾向がわずかに認められますが、火山活動は概ね静穏に経過しています。火山ガスや噴気・地熱の活動は継続していますので、入山する際には注意してください。

安達太良山〔噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）〕

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

磐梯山〔噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）〕

火山性地震は2022年10月以前に比べて引き続きやや多い状態で経過していますが、その他の火山活動に特段の変化はなく、概ね静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

上記以外の火山の活動状況に特段の変化はなく、予報警報事項に変更はありません。

※噴火警戒レベルは、地域防災計画等でその活用が定められている火山で運用しています。

この管内月間火山概況は気象庁ホームページで閲覧することができます。

https://www.data.jma.go.jp/vois/data/report/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php

次回の管内月間火山概況（令和8年9月分）は令和8年10月8日に発表する予定です。

資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.jma.go.jp/jma/kishou/known/kazan/kazanyougo/mokuji.html>

この資料は気象庁のほか、国土交通省東北地方整備局、国土地理院、北海道大学、弘前大学、東北大学、国立研究開発法人防災科学技術研究所、青森県及び公益財団法人地震予知総合研究振興会のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院発行の『数値地図25000（行政界・海岸線）』を使用しています。